

令和7年2月28日

中標津町議会議長 後 藤 一 男 様

中標津町議会議員 佐久間 ふみ子

研 修 報 告 書

以下の視察について、次のとおり報告します。

- 1 視察名 文教厚生常任委員会道内視察
- 2 視察先 帯広市 帯広第一病院
- 3 視察日 令和7年1月27日（月）
- 4 視察事項 P N S看護方式について
- 5 成果（具体的に）

P N S（パートナーシップ・ナーシング・システム）とは、看護師が安全で質の高い看護を提供することを目的とし、2人の看護師が良きパートナーとして、対等な立場で互いの特性を活かし、相互に補完し協力し合う看護提供方式で、今回、帯広第一病院で学んでまいりました。

2018年にP N Sを導入する前は、10年以上、自己完結型の看護体制で忙しく、離職率が年間30%以上と多く、福井大学病院の看護部長が作ったP N S方式を知り、視察へ1週間滞在し研修してきたそうです。



帯広第一病院

帯広第一病院看護部理念「患者様の尊厳を大切にし、質の高い看護を提供します」に基づき、「変化に対応し成長し続ける看護師」の育成を看護部全体で補完し合い、問題が起きても前向きな思考で解決につなげていくというP N S方式の考え方にとても共感しました。

しかし、今年度から診療報酬改定により離職者が増えており、これまでのパートナーシップが出来なくなっていることが今の課題で、看護師の役割を補助するパートを雇用している状況ですと、ご苦労されている様子でした。

本町において、看護師の離職に伴い病棟の看護体制が縮小されることになれば、患者へ

の影響は大きいです。入院を希望してもかなわないなど別の病院を探すことも考えなくてはなりません。安心して医療が受けられる看護体制の見直しを早急にすべきと考えます。現在の自己完結型の看護からPNS方式の看護体制と考え方(前向きな思考が問題解決につながる)を看護師、病院職員で研修を受けることを提案したいと思います。

また、看護部長より公立病院と民間の病院の退職金について、公立病院の受取額が大きいことを安定した将来に向けて話をしてはどうかと助言をいただきました。冗談ではなく、真剣に言ってくださり現実的な提案として率直に共感しました。

今回の視察で、PNSの基本である「対等・平等とは、相手を尊重し、慮ること」の考え方・看護方法を学び大変勉強になりました。

4 視察事項 帯広市教育委員会 ひろびろチョイス

5 成果（具体的に）

帯広市教育委員会が運営する、デジタル技術を活用した学びのプラットフォーム「ひろびろチョイス」の実施の背景、概要を研修してまいりました。

不登校児童生徒の多様な学びの機会を確保し、社会的自立につなげていくことを目的として、オンライン教育支援センター「ひろびろチョイス」が令和5年5月に開設されました。コロナ禍で、不登校児童生徒の数が2年間で



帯広市役所

80人近く増加し、支援の拡大が必要と考えていたところ、GIGAスクール構想によってICT環境が整備されたことで、メタバース空間を活用した不登校支援に取り組むことになったということです。

令和5年度の登録数139名、ネットがつながる端末があれば、どこからでも入室できて、自宅や校内、教育支援センターなど思い思いの居場所から、アバターを使ってログインできます。ひろびろチョイスは、タイムスケジュールはありますが、入室も退室も自由で、自分たちで内容や学びのスタイルも選べるようになっています。最近は友だちとチャットで会話しながら昼の時間を過ごす姿も見られるようになったとのことでした。

また、帯広市内の4つのフリースクールなどの支援団体が協力して学びを提供し、リアルで集まって卓球やモルックなどスポーツも行われ、フリースクール自体の利用も増え、子どもたちの居場所が各所に広がっていくことを期待しているとのことでした。

本町の令和5年度の不登校児童生徒数は、小学校24人、中学校45人、合計69人と総児童生徒数は毎年減少していく一方、不登校者数は増加している状況です。

現在、教育指導センターでは適応指導教室「陽だまりルーム」を開設し、専門相談員が不登校児童生徒の学校復帰や社会的自立に向けた支援を実施していますが、在籍校と連携し、個々のタブレット端末を活用してオンライン授業を受けられる環境を整備することは必要だと考えます。

今後、オンライン教育支援センターとしての取り組みも視野に不登校児童生徒の多様な学びの機会の必要性等、新しい支援の形を構築すべきと視察を通して感じてまいりました。

- 2 視察先 美幌町役場
- 3 視察日 令和7年1月28日（火）
- 4 視察事項 申込バス「もーびー」
- 5 成果（具体的に）

現在、本町では地域公共交通の見直しに向けて「中標津町地域公共交通活性化協議会」が設置され進められています。今後の少子高齢化に伴い高齢者や免許返納者等の交通弱者への対応が求められているところです。



美幌町役場での質疑

今回、美幌町のデマンド型公共交通「申込バス・もーびー」の運行形態、導入に向けて先進的取り組みについて研修してまいりました。

運行形態は、デマンド型乗合タクシーで乗車前に電話で申し込み（予約制ではない）、路線バスのバス停 79 か所と、もーびー専用バス停 25 か所で乗降できます。

そして、半径 200m 以内に 1 か所の「もーびー専用」としてバス停を設置して、最短ルート

で移動できるように利便性が図られています。

導入時は、パンフレットを全戸配布し、自治会や老人クラブなどを対象に説明会を 18 回開催、広報誌やホームページへの掲載等で周知徹底し、町民からの要望・意見を聞き、導入後の改善点として運行区域の拡大、バス停の増設や回数券の導入、無線導入による効率化の取り組み、運行をもっと細かくする対応を考え、もーびーの活用で地域づくりを考えているとお話を伺い、公共交通における意気込みと熱意を感じました。

本町では、令和7年度に町営バス路線のデマンド化と市内循環バス3路線の実証運行が予定されていますが、利用者や地域住民への丁寧な事前説明と広報誌やチラシを配布するなど、全町民が分かりやすい運行形態とダイヤの編成の見直し等、更なる利用促進と

地域の活性化につながる公共交通のあり方について、美幌町の取り組みは大変参考になりました。

2 視察先 網走市

3 視察日 令和7年1月29日（水）

4 視察事項 網走市立郷土博物館・モヨロ貝塚館

5 成果（具体的に）

○網走市立郷土博物館

この建物は、昭和11年に「北見郷土館」として建設開館された、北海道最古の博物館です。建物の正面2階の窓に幾何学模様のステンドグラスと赤いドーム屋根と白い窓枠が館のシンボルになっています。昭和23年に網走市に移管され、昭和36年には創設25周年を記念して別館が増築され充実が図られています。そして、令和元年に国の登録有形文化財に登録されました。

館内は、ホールを境に右側に海の自然コーナー、左側に森の自然コーナーと分けられ網走の森やオホーツク海に棲息する動物たちのはく製が展示され、その迫力に圧倒されました。また、1万年以上前の旧石器時代にはじまる北海道の歴史から、網走を中心に展開されたオホーツク文化の展示も、初めて目にするものばかりで興味深く拝見してきました。展示もコーナーごとに分別され、見学者が見やすく移動できるように工夫されていて感動しました。



郷土博物館内

○モヨロ貝塚館

史跡 最寄貝塚は郷土博物館分館として、網走川河口に位置しています。今から約1300年前の網走に暮らした「モヨロ人」のムラあととして、モヨロの人びとの暮らしを「住居」「墓」「貝塚」のテーマごとに展示・紹介しています。

「オホーツク文化」は、「モヨロ貝塚」を利用していた「モヨロ人」という民族から伝わってきたと考えられています。



モヨロ貝塚館内

モヨロ人が食していたハマグリやカキ、アサリなどの貝殻が積み重なり、断層となった様子も職員が手作業で復元し展示されていました。

また、住居も当時の家の大きさを再現し、体感できるよう復元されていました。

モヨロ貝塚館の史跡内には、オホーツク文化の復元された住居や墓、続縄文時代の住居跡群を見学できます。次回は、史跡を見学できる時期に来てみたいと思いました。